

加

又外部ニ渡レス極充分注意ヲ要ス

五「ルーズベルト」及「ハル」等ト既ニ話カ進ミアルコト故國際關係

ノコトモ考ヘサルヘカラス

四月二十二日第十九回連絡懇談會

松岡外相歸朝報告並對米國交調整ノ件

一 自午後九時二十分至十二時二十分

二 出席者 大橋外務次官特ニ出席ス

三 要旨

最初外相ノ獨伊一ノニ關スル説明アリ。

次ニ野村大使提案ノ對米國交調整ニ關シテハ、松岡外相ハ自分ノ考ヘトハ大分異フ故慎重ニ考フル必要アリ、二、三日仕事ノ整理ヲナシタル後ユツクリ考ヘ度シト申入レタルヲ以テ、陸海軍研究ノ意見及修文ヲ渡シ研究ヲ要望セリ。外相ハ一昨日來睡眠不足ニテ疲勞シアリトテ中途ニテ退出歸宅ス。

其後護海軍意見ニ就キ爾大臣ヨリ説明シ種々懇談ヲナシタル後十二時半解散ス。

此間松岡ノ對米態度ノ決定ニ二週間乃至二ヶ月位カカルカモ知レントノ意見ニ對シテハ、大部ノ者ハアマリ遅クテハ對米對獨共ニ適當ナラヌト述ヘ、平沼内相モ國內のニモ相當疑問ヲオコス故成ルヘク早ク進メル要アリト述フ。

松岡外相ハ最初疲勞シタル様ナリシモ逐次疲勞ハフツトシテ極メテ元氣トナレリ。

四 松岡外相説明概要 第十二號 二十號

(一) 對米問題

三ヶ月前ヨリ考ヘテ居フト事タカ「モスコ」ナ米大使ニ、米

大統領ハ大バクヲ打タ、歐洲戰爭モ支那事變モ皆米國カ援助シテヤラセテ居ル、平和ヲ好ム大統領ハ日本ノ平和ヲ好ムトニ同調シ蔣ニ和平勸告ヲ提議スル建議シテハトウカト述ヘ、大使ハ大統領ニ電報シ、自分ハ「モスコ」テ返事カ來ルカモ知レント思フ居タ所返事來ヌ、歸京シテ野村カラノ提案ニ撥シ多ワケテアル。

此ノ問題ハ支那事變處理以外ニ相當重大ナ事カ含まレテ居ルカラ二週間カ一ヶ月カ二ヶ月位慎重ニ考ヘナケレハナラス。

(二) 對獨伊首腦部會談

責任ヲ負ハサレル様ナ事ハ一切話シテ來ナイ。

南方問題ハ日本自身テ處理スヘキモノト述ヘタ。

獨ハ南方問題ヲシキリト話シタカ、伊ハ南方ノ話ニハ一切フレ
スシテ我等ノ敵ハ「ソ」ナリト云ツテ居ル。

又三國同盟ハ米ノ参戦ヲ阻止スルニ在リト云フコトニ對シテハ
「リフベン」モ「ムフソリニ」モ同意ヲ表シテ居ル。

○曰「ソ」中立條約締結経緯

獨逸出發ノ時「スターマ」ニ、「レニングラード」へ行クカラ

「モスコ」に滞在シ長クナルカモ知レンド述ヘ、歸船更ニ日「
中立條約」ニフレルコトヲ仄カシテオイタ。

「モロトフ」トハ三度會見シタカ「モロトフ」自説ヲ維持シテ
講ラス、條約ハ到底モノニナラスト考ヘ、イロク被キテ自分ノ
考ヘテアツサリ述ヘ、又英文ノ手紙ヲ將來ノ參考イ爲ニトモ

コトフニ渡シタ。

其夜明白「スターリン」ハ何時テモ會フカラト電話カアリ午後

五時カラ會テ話トニ約束シタ。

翌日午後五時「スターリン」ノ部屋テ挨拶ヲ送ヘ、此際トバカ

リ八款一字ニ就テ話シ出シタ、「スターリン」ハ机ノ上ニ中立

條約ヲ讀定書ト「モロトフ」ニ渡シタ自分ノ手紙トヲ置キ、八

款一字ノ話ヲ聞キ乍ラムズムシテ居ツタカ、ソノウチ「スタ

ーリン」ハ「俺ハ才前ヲ信スル、又近衛ヲモ信スル」ト述ヘ條

約ノ修文ニ就テ話シ出シタ。

條約文中ニ滿洲國ノ事カアツタノテ、獨立國ヲコンナ風ニ取扱
フノハ具合悪イト述ヘタル所「スターリン」モ同意シタ、「ス

タイリン」ハ地圖ヲ取り寄セ南緯太ヲ「ソ」ニ賣レトシキリニ
主張シタノテ、自分ハ緯太ハ十六世紀以來日本ノモノテアツタ
ノヲ「ソ」ニ取ラレ、國民ハ其後長イ間北半部ヲ取り返ソウト
念ニ燃エテ居ルト述ヘタ、之ニ對シ「スターリン」ハ東ハ「カ
ムチヤツカ」西ハ沿海州ニ「ノド首」ヲシメツケラレテ居ル
ウニモナランテハナイカト述フ、自分ハ地圖ヲ示シ乍ラ、地圖
ヲモツト大キク見セケレハイカン、印度「イラン」方面ニア
聯トシテハ出ル方カ宜イテハオイカキ日本ハソレニ對シテハ日
又ソゾルト懸隔シ、經次話カ面白クナリ、遂ニ條約成立ノ遲ビ
トナツタ。スターリンハ其後セソクマニヤク
「ソ」聯カ何故條約ヲ結ンタカ其眞意ハ分ラヌカソウ云フ氣運

「ソ」ヲツタコトハ確カテアル。

四 獨「ソ」關係ニ就テ

「リウベシ」ニ「ライシラシド」ニ「ブルガリヤ」ニ「トルゴ」等
ニ關シテハ獨「ソ」間ニ豫メ瞭解カアツタノテハナイカト尋ネ
タ所何モノイト云ウタ。
「リウベシ」ハ「獨カ獨「ソ」不可侵條約ヲ結ンタノハ已ムニ
已マレス事情ニ依ルモノテアツテ、獨トシテハ何トカシテ「ソ」
ヲヤツツケ度イト思フ、今ナラ三、四ヶ月間テヤツツケラレル
ヤツツケタ結果ハ「ソ」ハ四分五裂スルト思フ。又日本カ「シ
ンガポール」攻略ヲヤルトンテモ北方ハ後顧ノ憂ハナイ。「ギ
リシヤ」ノ降伏ハ既ニキマツテ居ルカ「バルカン」ニハ英ノ手

カ相當伸ヒテ居ル。「スターリン」ハ用心深い男タカラムヤミ
ニ動ク様ナ事ハセント思フ」等述ヘタ。
尙英本土攻撃ハ「バルカン」攻撃ノ前ニヤルカ後ニヤルカト質
問セル所、「リッペン」ハハツキリ答ヘラレストト述ベ同答セス
自分ハ日「ソ」條約ハ昨年七月カラ「ソ」ニ提案シテ居ツタカ
其後情勢ハ變ツタノヲ今度ハアツサリシタ形式テヤリ度イ、若
シ「ソ」カ食ヒツイテ來タラ條約ヲ結フ考ヘタト述ヘタ所、「リ
ッペン」ハ「ソ」ウズ」と云ウタ。而シ「リッペン」ハ條約ハ出
來ント思フテ居タラシイ、今度ノ成立又見テキツト條ハ篤イテ
居ルダヌク。
④伊太利ノ狀況

伊ハ獨ニオサヘラレテ居ルハ而シ今ハ獨ニタヨル事ニ依ツテヤ
マツテ行ケルタラウ。日英ハ英海軍守土ニテハハツトモ、
此ノ様ニ國內狀態ヲアツタレテ同盟國ノ外相ヲ來訪ヲ非常ニ感
銘シテ居ツタラシイ。英ハ伊ヲ英獨ニ引入レル様盛ニ工作シテ
居ルカ伊ハ動かナイ。
伊國民ハタヨリニオラヌカ「ムツツリニ」ハナカオカ立派
ナ人物テ「ムツツリニ」ト「セツト」トハ本當ニ水モ洩
ラサス仲ラシイ。
「チアノ」ハ「ムツツリニ」ハヤルト云ヘハ必スヤル人タカ
ラ伊ハ大丈夫タト述ヘテ居ル。
⑤「モスコ」ニ於ケル米大使トノ會談（略ス）

英大使卜劇場ニ於ケル會見
其松岡外相退出後ニ於ケル懇談要旨

松岡外相ハ事重大故エツクリ慎重ニト云フカ、米ノ心理ヲ運用スル着意ヲ必要トスルカラ成ルヘク早く話ヲ進ムルヲ可トスル意見大部ヲ占ム、平沼内相モ國內對策上之ヲ主張ス。大橋次官ハ立川カラノ自動車内テ、外相カ獨ノ充分ナル瞭解ヲ取付ケネハオラント云ウタコトヲ述ヘ、瞭解ハ無用進告程度ニテ可ナリトノ意見ニ對シテハ、外相ノ意見ハ相當強硬ナル旨ヲ述フ。之ニ對シ及川海相ハ瞭解ヲ取付ケルト云フカ之カ成立シナカツタラトウスル、本提案ノ目的ハ支那事變中止ニアルノテハナイカ、此ノ點充分事ノ輕重ヲ分ケテ考ヘオケレハオラント思フト特ニ主

張セリ。

席上陸相ハ陸海軍ノ總括の意見海相ハ修正意見ヲ述ヘタリ。